

同窓会

の

チカラ

同窓会のための情報誌

2016

特集 ● 同窓会と行政のコラボレーション

- ・甲子園に行こう!! : 兵庫県立長田高等学校神撫会
- ・同窓会の応援団 : 糸魚川市

リレー連載 ● 私と同窓会

- ・野本憲雄 (新潟大学理学部同窓会会長)

紹介 ● 同窓会活動紹介

- ・学園+同窓会のチカラ : 愛知みずほ短期大学同窓会
- ・FM ラジオで PR : 福島県立喜多方高等学校桜壇同窓会
- ・旧職員の同窓会 : 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校旧職員会
- ・覚醒する同窓会 : 広島文化学園短期大学あかね同窓会

わが学び舎

- ・茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会

Our Proud

茨城県立土浦第一高等学校 / 旧土浦中学校本館
(明治 37 年 [1904 年] 竣工 / 国指定重要文化財)

Vol. 8

甲子園に行こう!!

兵庫県立第三神戸中学校 神撫会
兵庫県立長田高等学校

智・徳・体の調和的発達を目指し
21世紀を駆ける



●二〇一六年一月末、兵庫県立長田高等学校野球部は、「二十一世紀杯」で選ばれた。これを受けて同校同窓会・神撫会では、広く全国の会員に向け母校応援のための募金活動を開始した。創部以来初めての甲子園出場であり、また大会までの時間的余裕も無い中、必要な予算を確保するために、同窓会では全国でも珍しい「ふるさと納税」を活用した募金を実施したという。その募金活動の経緯を理事長の三宗司郎氏と代表常務理事の松本義宏氏に伺った。

甲子園がやってきた!!

二〇一六年一月二十九日、第八十八回選抜高等学校野球大会の二十一世紀杯に長田高校が入ったという報せを受けました。

創部以来初めての甲子園出場という慶事です。野球部の選手諸君や関係者は言うにおよばず、全生徒・教職員、そして、卒業生である神撫会（同窓会）の会員にとつて、おそらく世界が昨日とは違って見えたことでしょう。

何と言つても甲子園です。地元の兵庫県に居ながら、夢でしか無かった球児の聖地「甲子園」の選抜大会に出場するということは、それはもう筆舌に尽くし難い喜びそのものです。

しかし、甲子園出場の喜びと共に、未経験なだけに全く勝手の分からない出場と応援の準備という大仕事待ち受けています。ただ喜んでばかりはいられません。とりわけ学校の教職員の方々には、ただでさえ忙しい年度末近くに、出場に伴うさま

ざまな作業やご苦労があったことと思います。

甲子園出場ともなると、部員のユニフォームやグラブ、バットその他の用具類を新調しなくてはなりませんし、練習場所の確保や器具の整備も必要です。開会の四、五日前から、選手たちは全員、高野連指定の宿で合宿しなければなりません。プラスバンドやチアガールのダンスチームを含めた応援団の結成準備も必要です。その他甲子園チケット、応援グッズの購入などに要する予算を捻出しなければなりません。

となれば、同窓生を中心とした方々の寄附に頼る他はありません。そこで学校内に、神撫会と野球部OB会、PTAによる「兵庫県立長田高等学校選抜後援会」を立ち上げました。出場決定から半月後には寄付を募る趣意書「支援のお願い」を二万一千人の同窓会員宛てに発送し、募金活動をスタートしました。

対戦相手と試合日時は三月十一日の抽選で決定することでした。一回戦は、三月二十日の開会式当日から三月二十五日の間に行われるという日程ですから、ほぼ一ヶ月間の短期募金キャンペーンです。正直、どんな準備が必要か、どれだけの費用が必要なのかということも出場経験のある学校関係者からの情報を参考に推測するような状態で、どれだけの寄付が集まるかも心配でした。

協議の末、寄附は一口五千円としました。PRは「お願い文書」の他、神撫会ホームページや新聞広告記事も掲載しました。

今回の募金活動では、選抜大会では全国初の「ふるさとひょうご寄附金」というふるさと納税制度が活用出来たことが非常



に画期的なことだと思えます。

この「ふるさと納税ワンストップ特例制度」は、税金でありながら長田高校への寄附金のように選抜大会出場への費用やクラブ活動で全国大会を目指す活動への支援、教育環境の整備に充てることが出来るというものです。

この制度を利用して寄付申出書を提出された方には、納付書が郵送され、寄附した年度の所得税と、翌年度の住民税から税額控除が受けられます。

控除額は「ふるさと納税」（寄附金）の額や個人の所得などによって決まりますが、もともと税金として収めるべきお金を母校応援に寄付できるので、寄附をお願する側からすれば、こんなに有り難いことはありません。

ご承知の通り「ふるさと納税」の納税先は、出身地や居住地に限定されませんが、広く全国の人から応援していただけるわけです。



●連絡先
 〒 653-0821
 兵庫県神戸市長田区池田谷町 2 丁目 5
 兵庫県立長田高等学校内 神撫会事務局
 TEL 078(631)9730 / FAX 078(631)9730
 URL : <http://www.nagata-shinbukai.server-shared.com>



右：三宗 司郎（みつむね・しろう）氏
 （高校 17 回）神撫会理事長
 左：松本 義宏（まつもと・よしひろ）氏
 （高校 18 回）神撫会代表常務理事

燃える同窓会

県としては、ふるさと納税制度を県立大学への支援などに活用してきましたが、使途に角度をつけて納税者の意思を尊重することで県外からの寄付を呼び込める寄附金事業を二〇一五年十月に募集しました。

長田高校は二〇二〇年に創立百周年を迎えます。百年といえは大きな節目ですから、当然記念式典や祝賀会などの事業や学校への貢献事業も考えたいところです。そこで実は、百周年事業のための募金活動に、兵庫県版ふるさと納税を活用できればと「ふるさとひょうご寄附金」への応募申請をしていたのです。

そこへ選抜二十一世紀枠出場が発表されたことで状況が変わりました。

二〇一六年二月十二日に、兵庫県より、二〇一五年度単年度の扱いで募金事業が認可されました。長田高校野球部の選抜出場を「ふるさと納税」で応援できる制度への適用を井戸知事がプレス発表していただいたことも大きなインパクトがありました。

今になって思うのは、「ふるさと納税」の認知度が意外に低いということですね。現状では寄附の「ふるさと納税」と「一般の寄附」の割合はほぼ半々というところですが。最終的な集計は、どうしてもタイムラグがあるのではつきりとは申し上げられませんが、トータルで三千万円はクリアでき、五千万円の目標額も達成できそうです。

今回の甲子園出場は、長田高校にとって大きなトピックスだった訳ですが、兵庫県

にとっても、先行モデルの好スタートとなつたのではないでしょうか。

「ふるさと納税」は目的が明確で使途が分かりやすいほど寄附が集まりやすい、と言われています。二〇一六年度「ふるさとひょうご寄附金」の事業分野のひとつに「県立学校環境充実応援プロジェクト」が加えられました。これはつまり、甲子園出場のようなビッグイベントに限らず、県立学校への応援のための寄付申請を受け付ける、ということなのです。

Field of Dreams を超えろ

甲子園における長田高校は、三月二十四日、残念ながら惜しくも初戦敗退となりましたが、強豪校相手にいい勝負の試合内容で、応援の皆さんも喜ばれていました。この分なら、夏の甲子園にも期待が高まりそうです。

選抜後援会としては、出場決定から、ともかくにも全力疾走した、てんやわんやの二ヶ月間でした。そして試合終了後、寄附を下さった方々、熱い応援をして下さった皆様への感謝のメッセージを有志の配慮で神戸新聞紙上に掲載していただきました。

四年後の百周年を含めて、今後、神撫会が何らかの目的で募金活動をする際、単年度決算という壁がありますが、この制度の活用ももちろん考慮することになるでしょうね。

神撫会にとっては、今回の活動を通して幾つかメリットもありました。そのひとつに、これまで消息が不明だった三百余人の

卒業生から応援の申し出をいただき、その所在が判明したことがあります。

母校の甲子園出場が、青春の息吹をよみがえらせ、同窓生の心を熱くさせてくれました。

そして、これに関わった人全てに、何かこれまでにない力を与えてくれたように思います。時に年齢を超えて共通の事柄に心を熱くする、そういう時もまた得難いものだと、今更ながら強く思いましたね。そしてこれらの日々を噛み締めつつ、母校と神撫会の発展に新たな気持で臨みたいと思っております。

応援して下さいました全国のみなさま、ありがとうございました。■



同窓会の応援団

新潟県糸魚川市



●連絡先

〒 941-8501 新潟県糸魚川市一の宮 1-2-5
 糸魚川市役所 市民部環境生活課市民生活係
 TEL 025-552-1511(代) / FAX 025-552-8250
<http://www.city.itoigawa.lg.jp>
 E-mai : kankyo@city.itoigawa.niigata.jp
 石崎 典子 (いしざき・のりこ) 主任主事

同窓会と行政組織のコラボレーション ふるさとの新たな発展を目指して

●新潟県糸魚川市では、市内の学校の卒業生が「同窓会」や「クラス会」を開く際、事前に申請すれば、ある一定条件の下で補助金を出すという事業を行っている。申請が認められれば一回の「同窓会」に最大十萬円の補助があるということ。で、その事業の目的と実情、結果などについて市民部環境生活課主任主事の石崎典子氏に伺った。

当市の「ふるさと糸魚川同窓会応援事業」の目的は、定住人口の増加と地域経済の活性化にあります。同窓会の集まりは、ふるさとへのUターンを勧めるきっかけになると考え、二〇一三年に同窓会への支援を開始しました。

支援する対象は、市内の保育園、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校を卒業した人を対象として開催される同窓会です。また、同一の学校で同学年や同クラスを単位とした同級会や複数の学校等の合同での開催も対象となります。

この他にも、同窓会は市内で開催すること、出席者が二十人以上で、かつ市外の出席者が十人以上など、条件が幾つかあります。具体的な申請手続きなどに関しては市役所のHPに載せておりますが、申請が通りますと、市が実施している「定住促進施策」や「ふるさと納税」などの資料「五点セット」を出席者分幹事さんにお渡しし同窓会場で配つてもらいます。市の職員が会場に出かけることはありません。そして終了後に補助金振込みの連絡とともに幹事さんにアンケート用紙を送り、回答いただきます。アンケートの内容は、同窓会の開催サイクル、同窓会時のイベント（ご祈禱

など）の開催や、市内観光の有無、開催前に配布したパンフレットに対する感想、定住促進へのご意見、などです。私たちはこのアンケートを通して市民のご意見を伺っています。

この事業から見えてきたことは、同窓会の開催者は六十歳から七十歳の人が多いこと。還暦や古希など節目に集まっていることが多いようです。また開催実績でいうと、中学校の同窓会が多いですね。実際にUターンした人の中には親の介護のためという理由の方もいるようです。

この三年間の事業の実績は別表の通りです。表内の「同窓会事業費」というのは、個々の同窓会の収支報告書の数字を積算したもので、いわば同窓会開催による地域経済への効果と想っています。また市外からの出席者数も年平均約一五〇〇人となっています。この表からは分かりませんが、同窓会はゴールデンウィーク、お盆、二〇一五年においては、秋のシルバーウィークなど、市外の方が帰省しやすい時期に開催されています。

定住促進を目的で始めた事業ですが、定住の実績については、少しきびしいものを感じています。事業については市の広報やHPなどでPRしてきたこともあり、糸魚川市が同窓会を支援していることは割合広く知られていると思います。この同窓会応援事業というのは新潟県の見附市や他県でも行っています。私どもにも県内外の他の自治体からの問い合わせが多くあります。糸魚川市では、この事業は当初から三年と区切って始めたもので、二〇一六年三月でとりあえず終了します。しかしこの事業はこれで終わるのではなく、これまでの内容

実績等を精査し、支援の形、内容、条件等を再検討して、より効果的な方法を考えていきたいと思っております。

糸魚川市役所と市章



※この事業の詳細は上に記載した糸魚川市役所のHPをご覧ください。

※2015年は2月末現在の数値です。

| 年度 | 件数 | 補助金額 | 同窓会事業費 | 参加者数(人) | | |
|------|-----|-------------|--------------|---------|-------|--------|
| | | | | 市内 | 市外 | 計 |
| 2013 | 89 | 6,245,000円 | 45,932,550円 | 2,136 | 1,672 | 3,808 |
| 2014 | 61 | 4,151,000円 | 29,023,393円 | 1,368 | 1,177 | 2,545 |
| 2015 | 83 | 6,065,000円 | 46,452,919円 | 2,118 | 1,644 | 3,762 |
| 合計 | 233 | 16,461,000円 | 121,408,862円 | 5,622 | 4,493 | 10,115 |



私と同窓会

新潟大学理学部同窓会会長 野本 憲雄

新制「理学部同窓会」発足 25 周年に想う



新潟大学理学部同窓会・会長
野本 憲雄 (のもと・のりお) 氏
(新制 13 期・昭和 40 年卒)
新潟県教育長／新潟県公・私立高等学校長
新潟県文化振興財団専務理事／法人新潟大学経営協議会委員

どのような集まりも、それに係わる人が少なければお互い同士親しく、考えもよく分かり結びつきも強いですが、係わる人が多くなるにつれて考え方も多様化して全体の結びつきは弱くなり、集まりそのものも変質していくものだと思います。発足直後の理学部同窓会も卒業生の数が少なかったので結びつきが大変強かったとお聞きしています。しかし、大学が大きくなり卒業生の数が増えてくるにつれて、理学部同窓会も御多分に洩れずいつしか「理学部同窓会」から「学科ごとの同窓会」へと変質して行つたようです。

こうした変化の中で、それでも、やはり「学部全体としての」同窓会活動は大切ではないかという機運が生まれてきて、第一期卒業生を中心とする先輩諸氏が「理学部同窓会」の一本化に向けて精力的に努力され、二十五年前に新制「理学部同窓会」の発足にこぎつけられました。どのような集まりも何の努力もしなければ、ばらばらになつてしまふのが自然の成り行きです。流れに逆らつて同窓会の一本化を成し遂げられたご苦労はさぞ大変なものであつたであろうと推察しています。新制「理学部同窓会」の発足を成し遂げられた先輩諸氏に、改めて深甚なる敬意と感謝の意を表します。

お届けする同窓会名簿は、新制「理

学部同窓会」発足二十五周年記念事業の一つとして、皆様のご協力を頂いて編集したものです。

人と人との関係はもとより大切なものですが、青春のひと時を同じ境遇でともに過ごした仲間との関係はなおさらだと思えます。学校を卒業した後も仕事の上で、また地域社会で次々と新しい人間関係はできませんが、若いころ同じ境遇で机を並べて過ごした仲間との関係は一味違ふように思います。かけがえのない縁はお互い大切にしたいものです。同窓会名簿をそのために役立てて頂ければ幸いです。

併せて、いま、そしてこれから同じ場で学ぶ若者にもいささかなりとも力になりたいものです。皆様の同窓会活動への一層のご協力・ご支援をご期待申し上げます。

編集に当たっては、個人情報の取り扱いには十分意を用いた積もりですが、個人情報の取り扱いが厳しくなればなるほど、個人情報を売りにする卑しい人たちもないではありません。同窓会名簿は、お互い人様のご迷惑にならないように使用し、きちんと管理したいものです。

最後になりましたが、同窓会名簿の作成に大変ご苦労頂きました同窓会事務局の皆さん、株式会社サラトの皆さんに感謝申し上げ、理学部同窓会名簿

発行のご挨拶とさせていただきます。

●この文章は平成二十七年七月発行の同窓会名簿の会長挨拶文に加筆修正頂いたものです。

◀新潟大学理学部キャンパス



●連絡先

新潟大学理学部同窓会
〒 950-2181
新潟市西区五十嵐 2 の町 8050
新潟大学理学部内
TEL/FAX: 025-262-6261
E-mail: ridoso@ad.sc.niigata-u.ac.jp
URL : <http://www.ridoso.jp>

学園＋同窓会のチカラ

愛知みずほ大学同窓会 愛知みずほ大学短期大学部同窓会

学園＋同窓会の強力チームが作り上げる
実のある学園生活と将来へのキャリア形成



◀校舎前に設置された碑
「健への探究」

●学校法人瀬木学園は、昭和十五年（一九四〇年）名古屋瑞穂区の現在地に瑞穂高等女学校として開校したことに始まり、現在は、愛知みずほ大学・大学院、同短期大学部、同瑞穂高等学校の四つの組織から成る。大学開学に際しては、学業にふさわしい環境を郊外に求める当時の風潮もあつて豊田市にキャンパスを置いたが、その後の学生数の減少などもあり、より魅力ある学園を目指して平成二十五年（二〇一三年）名古屋市内の高等学校と短期大学の敷地に統合新校舎を建設し移転した。

このキャンパス移転に伴う学園のイメージアップ作戦と、充実した教育と就職支援の態勢、同窓会による学校支援の実際を関係する方々に聞いた。

PR誌「MIZUHO」の活躍

― 学園移転と告知大作戦 ―

二〇一三年四月に新校舎で大学・大学院の授業が始まってから今年でようやく三年目となりますが、それ以前に学校の移転が決まるやだちに対外的な「告知」活動に着手しました。大学がひとつ引越するわけですから、社会的にも大事です。そのためさまざまな機会をとらえ、考えつく限りのPR活動を行いました。

そうした活動のひとつに二〇一一年七月に刊行した「瀬木学園だより・MIZUHO」があります。これは当初、短大の卒業生宛の広報誌として発送されたのですが、同年九月の第二号はこれを高校の卒業生にまで広げ、さらに翌年五月の第三号からは大学の卒業生にも発送を開始し現在に至っております。この広報誌は、同窓会

員はもちろん、在校生及びその保護者、地域社会、名古屋市および周辺地域の中学・高校を対象としたもので、はじめ年四回の発行でしたが、一定程度移転の情報が行き渡った現在は年三回となりました。おかげさまで今では毎号三万部ほどを発行しています。

この広報誌を発行するにあたっては同窓会の協力が欠かせませんでした。実は短大の同窓会は名簿作成等を通じある程度は卒業生情報を把握していましたが、高校のデータは古いままでしたし、大学の情報も卒業時のもので、学園が活用するには不足があつたんですね。そこで学園では大学・短大の同窓会の協力を得て卒業生情報の調査更新作業を行いました。同時に高校のデータでも不明者の処理や短大・大学との重複者の整理を行いました。これらで「MIZUHO」をお送りしていたこともあつて卒業生の反応は非常に前向きで、学園への協力の申し出も多数あり、高校、企業の担当者様からも高い評価を頂戴いたしました。

このように、移転を機に積極的な「キャリア支援」を進めようとする学園の活動に同窓会が果たした役割は非常に大きく、もともと緊密な関係にあつた学園と同窓会の絆が一層深まったと感じています。そして引き続きこの「MIZUHO」の制作・発行だけではなく、学園の事業そのものへの篤い協力を頂いております。

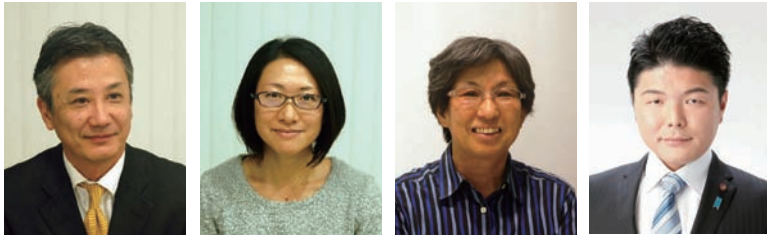
現在の「MIZUHO」の役割は、当初の「学園の一般的PR＋キャンパス移転のお知らせ」から一歩進んだ「学園全体のPR」に移つて来たと思います。それ

は「広く社会に対するアピール」と言っていでしょう。具体的な機能としては、学園からの情報、高校生に向けての大学・短大の学生募集、中学生に向けての高校の生徒募集、ということになりますね。学園としては教育機関として学生・生徒の募集をすると同時に、卒業する学生の就職を紹介する場を設けることが求められていますから、「MIZUHO」の役割もなかなか大変です。もちろんこの「MIZUHO」は、学園の雰囲気、また教育への取り組みの確かさ、といったものをアピールするもので、これから入学しようと思う人にとってはあくまで入り口ですし、新しい人材を求める企業にとつても学園のアウトライインを知る、これまた入り口でありましょう。学園の詳細は「学校案内」などの資料が別途用意されていて「OB・OGによるメッセージ」といった形で、生の・知た・役立つ・ホットな情報が記載されています。また学園内企業説明会や卒業生による「働くとはなにか」といったセミナーも実施しています。

就職は誰にとつても不安ですし、実際に入社するまでは落ち着かないものです。しかし当学園ではさまざまな形で生徒・学生の就職支援活動を行うことにより、地に足



▲瀬木学園だより「MIZUHO」



●連絡先
 愛知みずほ大学・短期大学部同窓会
 〒467-0867 名古屋市瑞穂区春敲町 2-13
 TEL：052-882-1815 (代) FAX：052-882-5700

※左から

●中島 和成 (なかしま・かずなり) 氏 / 講師・キャリアセンター キャリア指導室長 ●黒木 恭子 (くろき・きょうこ) 氏 / 学校法人 瀬木学園 法人本部 ●湯本 孝美 (ゆもと・たかみ) 氏 / 短期大学部同窓会会長 ●恩田佳幸 (おんだ・よしゆき) 氏 / 愛知みずほ大学同窓会会長

のついた本来の教育が出来るかと考えていますから、学園全体が生徒・学生とともに考えていく親身なスタンスを維持しています。この「MIZUHO」は、そのひとつの象徴ということになりますね。

「MIZUHO」のその先へ ―キャリア支援の目指すもの―

このような学園側また同窓会の努力もありまして、大学の学生数は豊田市時代よりはアップしていますし、都心回帰の結果は早くも始めていると思います。その意味で、名古屋でも文教地区といわれる瑞穂区に学園を集中させたことは成功だったと言えるでしょう。また大学では「MIZUHO LETTER」というパンフレットを年一回発行しています。これは卒業生だけでなく、在校生、保護者、旧職員に向けたもので、学園の建学の精神に沿った内容で、同窓会、学生会、クラブの現状、留学記、卒業生からの便り、就職現場で活躍する卒業生、などのニュースを紹介しています。また就職については、私たちがはきめ細かな対策として「キャリア指導室」を設けています。ここで言うことのアウトラインとそれを支える精神はおおむね次のようなものです。

いま学んでいることが社会でどう役立つのか」を実感できる支援をする、これが基本です。まずはキャリア教育を通して自分への理解を深め、将来の目標を描きます。その一方で、教職員・卒業生・地域社会・企業と連携して、在学中から社会に触れる機会を提供します。そして講義で学んだ専門知識を活かしながら、様々な人々と関わ

るコミュニケーション力を養います。その結果、社会で必要な知識・スキルと人間の魅力を兼ね備えた、いきいき働ける人間を育てる。それがキャリア支援室の理念であり願いです。そして学園では、キャリア教育のひとつとして次のようなインターンシップの取り組み強化を図っています。

学生は卒業生のいる会社をインターンシップ先に選択します。そうすることで先輩がロールモデルとなり安心して参加出来ます。一方企業側にとつては、若手の社員教育の機会になると考えられます。勤続三・四年でも新人を教えたことのない若手が沢山います。教える経験を持たない若者が、上司から怒られてもなぜ怒っているのかを理解しにくい。そうした若手社員に「教えること」＝「学ぶこと」を経験させ、初期キャリアにおける人材育成の一環としてインターンシップを位置づけてもらいます。実際、受け入れ担当者にとつては扱いが面倒な学生ほどマネジメントの勉強にもなります。学生にもチャンスが広がり、企業にとつては通常の採用活動では判断できないような能力を秘めた学生に出会える可能性があります。

このインターンシップは、これを受け入れて下さる企業にとつてもメリットがあり、学生にも自身の濃いインターンシップとなります。こういう学園の取り組み姿勢によってインターンシップの受け入れただけの企業の「数」を確保し、プログラムの「質」を上げるのと同時に、今後は振り返りを強化しインターンシップの充実を図ってゆきたいと考えています。そして、こういった取り組みに際しても同窓会による卒業生データの整備と学園との

協力関係は欠かせない大切な力となっております。

私たちの使命は、カレッジモットーである「健への探究」(大学)「健への教育」(短大)に則り、地域社会の中で教育機関としてしっかりと機能し続けること、そして社会に役立つ人材を育て送り出すことです。積極的に社会や企業とまじわり、また卒業生と同窓会との緊密な関係を保ちつつ、そこから遊離することなく、社会の一員として確かな位置を占めることが大切です。本学園、とりわけ大学は小規模なだけに同窓生の結束が強い。それは在校生や職員も同じです。手前味噌ですが、現在は小なりのメリットが良い形で実現できていると思います。

私たちは、今後とも同窓会をはじめ卒業生や多くの方々の協力を得て、更に充実した教育、そしてキャリア指導をして参りたいと考えております。





FM ラジオで PR

おうだん
福島県立喜多方高等学校桜壇同窓会



●連絡先
福島県立喜多方高等学校桜壇同窓会
〒966-0802 喜多方市桜が丘 1-129
TEL : 0241-22-017 ・ FAX : 0241-23-0947

五十嵐 哲矢 (いがらし・てつや) 氏
喜多方高等学校同窓会広報委員長

桜壇健児の気象を發揮し
地元とともに元気を生み出す試み

●近年、少子高齢化と過疎化が進む地方にあって、学校の生徒数の減少は深刻な問題であり、こうした状況に対応すべく自治体を含む地域全体が知恵をしばって独自の対策を講じている例が数多く見られる。そうしたなか、福島県立喜多方高校桜壇同窓会ではFMラジオを通じて学校と同窓会の情報をリリースしているという。このユニークな企画の目的は何か、番組の仕組みや維持管理、また費用などはどうなっているのか、その実情を桜壇同窓会広報委員長の五十嵐哲矢氏に伺った。

喜多方高校桜壇同窓会が実施しているラジオ放送というのは、地元の「FMきたかた」で二〇一三年八月からスタートした「輝け！桜壇健児」という番組で、毎週土曜日の午前九時十五分から十五分間放送されます。「同窓生には青春時代の思い出や希望、学校側からは近況や放送部の取材をお届けしています。輝け！桜壇健児！すべての同窓生、未来の同窓生に喜多方高校の魅力を発信していきます。」というのがキャッチフレーズで、在校生だけではなく、卒業生、これから入学してくる中学生、その父兄、そして地域のみなさん全員に向けたものです。もともと、毎週プログラムを作成するのは大変ですから、実際には月に一回の製作で、あとの三回は再放送ということになっています。

場から学校の様子を伝える」コーナー、第三に「生徒自身による文化・運動などの活動状況の報告」といったところです。最後のコーナーは生徒会の放送委員会が取材・録音し「FMきたかた」に送っていますが、番組の全体的な構成、取材、インタビュー、録音、編集は「FMきたかた」にお願いしています。

同窓会活動としてFMラジオを活用しようと考えた背景には、第一に、生徒が先輩から続く喜多方高校の歴史と伝統を深く認識してほしいという同窓会としての基本的な考えがまずあります。それと近年叫ばれている「少子高齢化」に伴う生徒数の減少に何らかの形で歯止めをかけたという願いがあったからです。このところの会津地域の人口減は顕著でして、喜多方市の人口も五万人になりました。二年ほど前の一学年二百四十名が現在では二百名、一クラス減です。手をこまぬいていけば、この傾向に拍車がかかる一方だという危機感が学校と同窓会双方に強くあり、両者が緊密に協力すべきだという認識のもと、色々と知恵を絞った末に考え出されたのがこのラジオを使ったPRです。これは広報委員会で議論のうえ企画が立てられ総会で議決、実行されたものです。



▲喜多方高等学校正門

送局に支払う費用は月額二万八千円十消費税で、同窓会が事業費から出しています。これは番組製作料と放送料を足したものです。多分、破格の値段でしょう。

この事業の目的は、言うまでもなく学校のPRであり、また郷土を同じくする人たちへの郷土愛のススメでもあります。この目的がどれほど達成されているかはまだ分かりませんが、コミュニティFMの「地域密着」の理念に沿った内容で少し聴取者も案外多い。こうした状況のなか、喜多方高校桜壇同窓会は、その活動を、学校と同窓会というひとつの閉じた世界ではなく、さまざまな層から成り立っている地域そのものとの協働事業と捉えて、これからも地域と母校への支援を進めていきたいと考えています。



旧職員の同窓会

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 旧職員会

「誠実 剛健 高潔 協和」の
校訓は今も

●連絡先

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校旧職員会

<http://www.ryugasaki1-h.ibk.ed.jp>

〒301-0844 茨城県龍ヶ崎市平畑 248

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校内

TEL 0297-62-2146 FAX 0297-62-9830



倉持 正男（くらもち・まさお）氏

竜ヶ崎第一高等学校 昭和 50 年（高校 27 回）卒業

茨城県立土浦第一高等学校・副校長

●茨城県立竜ヶ崎第一高等学校では、二〇一二年十一月に旧職員会を立ち上げ、会員相互の親睦と交流を深めている。この「旧職員会」について、世話役で現在土浦第一高等学校の副校長を務める倉持正男先生に設立の経緯と活動についてお話を伺った。

旧職員会というのは茨城県では多くの学校にあります。竜ヶ崎一高は、学校としての歴史は長いんですが、旧職員会というものはありませんでした。そのうち旧職員の方々から、おりにふれ「旧職員の同窓会を作ってはどうか」という声上がり、有志が世話役を買って出て、設立のための作業を分担し開始しました。旧職員のリストは同窓会名簿に記載されていますから、所在のわかる三百名ほどの方々に設立の案内を郵送したところ、二百名を超える回答がありました。これに意を強くして、規約案などさまざまな準備をし、二〇一一年十一月に旧職員会第一回設立の総会+懇親会を開くことが出来ました。この時の旧職員の参加は七十二名でした。

竜ヶ崎一高の旧職員会総会は、母校の「学校開放の日」に開催すると決めていました。当日は、学校見学、講演、総会、懇親会という流れで、懇親会以外は参加無料です。この日に開くのは理由があります。旧職員としてかつての職場の発展ぶりを親しく目に出来ること、そして授業参観に来校された父兄や未来の竜一校生である中学生など、多くの方々と親しく交流できることなどがそれです。旧職員会は学校のOBによる同窓会と同様、その目的に学校

支援という項目があります。講演などはそうした考えの下で実施しているもので、旧職員はもちろん、当日来校された外部の方どなたでも無料で聴講できます。第一回講師は旧職員で、校内の学習館を会場とし、八十名ほどの聴衆を集めました。その後、総会をばさんで、学校外での懇親会へと続きます。

旧職員会設立にあたっては幾つかのことに特に留意しました。たとえば通常見られる会費制を採らないこと。それと旧職員の方々は必ずしも竜ヶ崎一高のOBではないわけですから、竜ヶ崎一高出身者だけで集まる会になることのないよう心配りを欠かさないと、俗に言う「敷居が高い」雰囲気にならないようにする、ということですね。それと女性の旧職員が積極的に活動出来る環境を初めから設けること、などです。ですから本会では発起人に女性の方もしつかり加わっています。

本会では、開かれた親しみやすい会にする、ということをもまず基本として真ん中に据えました。懇親会などでも竜ヶ崎一高への赴任順にテーブルを設置し、同じ時代に在籍した人たちが同一のテーブルに集まり、すぐに打ち解けられるようにと工夫をこらしたりもしました。

本会は出入り自由で会費というものはありません。総会の日も講演だけを聴きにきた、という方もおられますし、そういう方も大歓迎です。いろいろな形の参加を受け入れるというのも本会の方針ですね。

おかげさまで当初のコンセプトに近いものが出来たかとは思いますが、同窓会同

様、この会は旧交を温めるためのもので、特段の義務などはありません。しかし在籍した学校の発展を願うのは自然な心の動きですし、具体的に何が出来るのか、いろいろと考えています。講演などもそのひとつです。講師もOBに依頼していますが、将来はOBであるか否とにかかわらず、必要な、あるいはホットなテーマにふさわしい方をお願いしたいですね。もちろんギヤラの問題はありますが。(笑)

発足して今年が三回目の総会です。いろいろ不十分なところがありますが、少しでも理想に近づけるよう、これからも努力してまいります。■



◀竜ヶ崎一高正門



覚醒する同窓会

広島文化学園短期大学

あかね同窓会

創立50周年の喜びをわかち合い
新たな活動に踏み出す



●連絡先

〒731-0136 広島県広島市安佐南区長東西3丁目5-1

広島文化学園短期大学内 あかね同窓会事務局

TEL 082-239-5171 (代) / FAX 082-239-2863

<http://www.hbg.ac.jp/college/graduate/akane/index.html>

E-mail: akane@hbg.ac.jp

山崎直子 (やまさき・なおこ) 氏

短期大学 学生課・係長



●二〇一五年十一月、広島文化学園短期大学あかね同窓会では五十回目の同窓会総会開催を記念して大きな同窓会を開催した。記念すべき同窓会は、今後の同窓会活動に向けての新たな出発点として位置づけられた大型企画であった。このイベント開催の経緯と実施内容、そして今後の同窓会活動への意気込みを、企画の中心として奮闘された学生課係長の山崎直子氏に伺った。

本学の同窓会名「あかね同窓会」は、スクールカラーであるあかね色に因みず、創立以来これまで同窓会は存続してはいたものの、実際のところあまり活動をしてきたわけではありませんでした。毎年キャンパスで行う総会、会報は五年に一回発行してきましたが、仕事と同窓会業務の両立は難しく、それ以上の活動はできないまま、二〇一五年、同窓会総会は五十回目を迎えました。一期生は七十歳、同窓会員数は約一万六千人となり、ここで何か同窓生の心に残ることをと、「五十回同窓会・祝賀会」へと踏み出しました。

企画の基本方針として、ホールで行う講演会がいいのか、ホテルで行う食事がいいのかわかりませんが、この二つの意見を組み合わせ、ホテルで講演会を挙行し、昼食会形式で、費用の大半を同窓会が負担することを決定しました。これまであまり使用していなかった同窓会費を、この機会に皆様に喜んでいただける使い方をしよう、できるだけ幅広い年齢層の同窓生が集えるようにと考えたからです。最終的に会場は広島市内のホテルで十一時から二時まで。講演は美容家の佐伯チズ氏。食事はホテル

のコース料理。これで会費は千円。破格の会費ですが、一人でも多くの同窓生に来ていただきたい、来ていただけなければ意味がないと考えました。本学は、昭和三十九年に開学、以降平成十一年三月まで、女子短期大学だったこともあり、主婦や子育て中の方も参加しやすい時間に設定し、講演も女性の関心事ということで美容をテーマとしました。しかし講演会をしたくても、どうやって有名な方をお招きすればいいのか分からず、大学の先生方に相談しました。講師の方との具体的な交渉も分からないことばかりでしたので、失礼なことが多々あったことと思います。しかし、わたしたちの「会を成功させたい」という気持ちが伝わり、講師の佐伯チズ先生をはじめ関係者の皆様は快く対応してくださりました。また、席次や来賓への対応など、考えるべきことは多々ありました。

結果は、出席者の反応を見る限り、満足度は高かったように思います。こういうことでもないと、なかなか連絡すらとりあうことがなく、久々に友人と会ういい機会になったとおっしゃる方、また、便利な場所だったから参加する気になったというご意見もいただきました。会そのものは大成功だったと思います。三百名近い出席者で大いに賑わいました。

なにぶん初めてのことで、色々大変な思いも思いましたが、同窓会のアピールもできたと思っております。実際、同窓会への協力者を募ったところ、幾人かの方の挙手もあり、ささやかかもしれませんが、新たな第一歩を踏み出したと言えるでしょう。

今後は五年に一度、今回のような大きな同窓会はできないかもしれませんが、ホテ

ルとキャンパスを交互に会場として開催したいと考えています。今回、五十回記念同窓会をきっかけに、母校の五十年を振り返るDVDを作成したことで、改めてその歴史を大事にしたいという思いも湧き、多くの同窓生、歴代理事長や学長をはじめ教職員の皆様と喜びをわかち合えたことは、私にとって大変有意義であり、本当に頑張った良かったと心から思っています。協力したメンバー、そしてサラトさんや助けてくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



▲あかね同窓会 50 回記念祝賀会



茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会
 http://www.sin-shu.jp/
 〒 300-0051 茨城県土浦市真鍋 4-4-2
 (土浦第一高等学校内)
 TEL 029-822-0137 FAX 029-826-3521

わが学び舎

茨城県立土浦第一高等学校 進修同窓会

君子進徳脩業、欲及時也。

「君子ハ徳ニ進ミ業ヲ脩メ、時ニ及バント欲スル也。」

沿革

茨城県立土浦第一高等学校は、明治三十年（一八九七年）四月七日、茨城県尋常中学校土浦分校として開校したことに始まる。同年四月二十二日、旧土浦城本丸跡の新治郡役所の二階で授業開始。この日を創立記念日としている。明治三十三年（一九〇〇年）四月一日、茨城県立土浦中学校と改称。明治三十八年（一九〇五年）三月五日、眞鍋町新校舎（現在地）に移転する。昭和十二年（一九三七年）十月二十四日、土浦中学校同窓会（進修同窓会）発会式を挙げる。

昭和二十三年（一九四八年）四月一日、学制改革により茨城県立土浦第一高等学校となる。平成八年（一九九六年）七月十五日、百周年記念事業の一環として多目的学習館（進修学習館）が竣工。平成九年（一九九七年）三月十五日、同じく同窓会館（進修記念館）が竣工。同年十一月一日、創立百周年記念式典を挙げる。そして平成十五年（二〇〇三年）一月十六日には、体育館が竣工する。

平成二十二年（二〇一〇年）三月十九日、Science Explorers Group (SEG) 三十八名、十一日間の米国研修に出発。

平成二十六年（二〇一四年）度より「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」に指定される。（指定期間は平成三十年年度までの五年間）

●進修同窓会の名称

同窓会名は、『易経』の「文言伝」にある「子曰、上下无常、非爲邪也。進退无恆、非離羣也。君子進徳脩業、欲及時也。故无咎。」からとったもの。

表紙写真・解説

旧茨城県立土浦中学校本館

明治三十七年（一九〇四年）に竣工した旧茨城県立土浦中学校本館は、明治時代の数少ない木造洋風建築であり、当時としては、西洋の香り漂うゴシック風の斬新なものであった。多くの旧制中学校校舎が姿を消すなか、当本館は特色ある原型をほぼ保ち続けてきた。そして昭和五十一年（一九七六年）二月三日、旧制中学校校舎として全国初の国重要文化財に指定された。

本校舎は長い間、外国人の設計と思われるが、昭和四十九年（一九七四年）に棟札が発見され、駒杵勤治こまき かしじの設計であることが明らかとなった。駒杵勤治は山形県出身。東京帝国大学卒の建築家で、東京駅などを設計した辰野金吾たしの きんごに学び、茨城県に赴任し僅か二年余の在職中に、県立図書館や土浦中学校など七つの本格洋風建築を設計している。

この旧本館のたたずまいはユニークで、かつ時代を感じさせることから、NHKドラマ『白洲次郎』や『坂の上の雲』などのロケ地ともなった。



▲ 100周年を記念するブロンズ像

●建物の概要と特徴

旧土浦中学校本館は創建以来土浦第一高等学校敷地内にあり、木造平屋建、延面積九八七・九㎡。凹字形の左右対称の平面構成。当時、西洋の香り漂うゴシック風建築は斬新で、驚嘆の的となった。

天を指す尖塔、玄関の三連アーチ、桜色と濃茶の配色、高い天井と手すきガラスの大窓、重厚な扉、随所に配された優美なアカンサス意匠。いずれも匠の技の結晶と言ふべきで、崇高で荘厳な趣を匂い立たせ、勉強の場にふさわしい雰囲気醸し出している。

平素は、一部を資料室とした歴史的建造物として、毎月第二土曜日に一般公開している。



「旧茨城県立土浦中学校本館」は、現在修復工事中に付き一般公開は休止しております。平成三十年三月公開の予定です。



▲ 竣工当時の旧茨城県立土浦中学校

ごあいさつ

福田 裕一

「同窓会報のチカラ」
— 同窓会報に思うこと



株式会社サラト・代表取締役
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

現在、弊社では年間約五百校の同窓会報・会誌の製作、発送業務を行っております。わたくしも同窓会の様々な活動を知る良い機会だと思い、拝見することを楽しみにしております。また広く知ってほしい活動などがあった場合には、同窓会の了承を得て小誌で紹介させていただいたりしております。

昨年は戦後七十年という節目の年だったこともあつてか、戦中に学生生活を送った卒業生からの寄稿文も相当数あり、私も興味深く拝読いたしました。戦中戦後を描いた書籍は数多くありますが、これらとは全く違う視点からのリアルな体験や想いを知ることができないのも「同窓会報」ならではのことでないでしょうか。この先、当時を知る方々が少なくなっていく中で、諸先輩方から語られる歴史を記録し、

発信し、未来に伝えていくことは、同窓会活動の枠を超えた社会への貢献であり、後世に対する使命であるように感じます。また現在に目を転じれば、卒業生の活躍する様子は在校生にとつての夢や目標になりますし、在校生の活躍はOB・OGの誇りと愛校心に繋がります。そしてそれらが積み重なり、校風や伝統が醸成されていくのだと思います。そうした意味からも、会報は単なる報告書ではなく、会員と在校生を繋ぐ架け橋だと言えます。

最近では同窓会でもHPで全てをまかなおうとする動きが見られます。確かに情報だけを素早く伝達するだけならHPが一番でしょう。しかし同窓会は効率性の高さを求められる「企業」ではありません。人と人が会い、話し、活動する、という同窓会の基本に立てば、会報を手にすることが、新しい発見や改めて実感することが多々あることと思います。「同窓会報」の製作にかかわり、さまざまな作業を通して、各自の存在を確かめあう、それもまた同窓会に集う理由でありましょう。機能と効率だけではないものが、同窓会にも会報にもあります。

会報の製作にあたって原稿の依頼や誌面構成をする事務局や学校の先生方のご苦勞を目的に、また執筆する役員・幹事、卒業生、学校関係者の方々の会報に込める想いに触れるたびに、誌面作りにご苦勞されていると思う一方で、それを楽しんでおられるのが伝わってきます。わたしたちサラトも、一人でも多くの方に喜んでいただける、そうした会報作りに取り組んでまいります。

同窓会のチカラ 2016年号 / Vol. 8

(2016年4月発行)

編集・発行 株式会社サラト
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746
東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7
シモジビル 5F
TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389
E-mail eigyo@salat.co.jp
URL : <http://www.salat.co.jp>

SALAT
Salat Corporation

サラトは昨年（平成二十七年）、全国百七十八校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様、心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。



▲同窓会報作成チーム